田地を寄進す。

【白山比咩神社文書】 石川郡　　一二八四

奉寄進　白山寺莊嚴講□(所)

分米四石處、了覺坊行家當知行無相□。然者以此年貢、四月御祭御供、又□□當勸進に可仰下行候。以餘米正月忌中衆有御集會、可預法花講并觀音經御廻向候。爲其本券壹通寄進狀調參□我等號門弟親類、違亂申輩出□、爲公方堅可有御罪科者也。仍爲後證□狀如件。

天文八年己亥正月吉日　　了覺坊　行家　在判

寄進主白山住呂

六月十六日。足利義晴、能登守護畠山義總に、その年始の禮物を贈れるを謝す。

【室町家御内書案】　　一二八五

爲年始之禮、太刀一腰・白鳥・海鼠腸到來、目出候。猶常興(大館)可申候也。

天文八年(足利義晴)六月十六日　　在判

畠山修理(義總)大夫入道どのへ

七月廿七日。能登守護畠山義總、足利義晴に、八朔の禮物を贈る。

【木村文書】 武藏　　一二八六

公方樣へ修理大夫(畠山義總)爲八朔御禮、太刀一腰持・青銅五千疋進上仕候。此等之趣相意得可申入旨候。恐々謹言。

七月廿七日　　秀　賴　在判

大館殿(常興)まいる人々御中

天文八九廿五(包紙)　　遊佐豐後守

大館殿まいる人々御中　　秀　賴

天文九年　庚子　紀元二二〇〇

二月廿七日。後奈良天皇、越前永平寺に、鳳至郡總持寺の門下を出世せしむるを停め給ふ。

【總持寺文書】 鳳至郡　　一二八七

能州鳳氣至郡櫛比庄諸嶽山總持寺門徒之衆、明應年中以來、於永平寺山居之地、成出世儀式、着紫衣黃衣背先例、

剩永平寺爲出世之道場之旨、雖帶應安勅裁令紛失之由、去年企謀訴、掠賜綸旨之條、太以不可然。所詮任道元和尙遺文之旨、自今以後被停止訖。存其旨彌可奉祈皇家再興者。天氣如此。仍執達如件。

天文九年二月廿七日　　左中辨(町資將)

當住普應(永平寺)和尙禪室

六月十四日。足利義晴、能登守護畠山義總に、その年始の禮物を贈れるを謝す。

【室町家御内書案】　　一二八八

爲年始祝儀、太刀一腰・白鳥・海鼠腸到來、被聞食訖。猶常興(大館)可申候也。

六月十四日(天文九年)

畠山修理(義總)大夫入道どのへ

八月廿二日。幕府、本願寺をして、山城曼殊院門跡領江沼郡富墓莊を百姓等の違亂するを停めしむ。

【曼殊院文書】 山城　　一二八九

竹內宮御門跡雜掌申　加州富墓庄上分參拾貫文事、松梅院就無沙汰、先年被成御直務御下知以來無相違處、彼庄百姓等內號先借、收納砌及違亂族在之云々。太不可然。早可退其妨之旨、對本願寺御成敗條、宜令存知候由、所被仰出之狀如件。

天文九八月廿二日　　盛(松田)　秀　在判

爲(飯尾)　時　在判

當所名主百姓中

十一月二日。幕府、本願寺坊官下間光賴をして、その料所石川郡森島等の代官職たらしむ。

【古文書集】　　一二九〇

御料所賀州森嶋、同六ヶ村長嶋・野田・高畠・宮武・藤六・小豆澤同德久御代官職事、任御請文之旨、先三ヶ年被仰談候訖。於御公用者、嚴重可京着候。仍補任狀如件。

天文九年十一月二日

下間左衞門大夫(光賴)殿